

新見市との意見交換をおこなう

鉄道ネットワークの意義は重要

11月月25日、地方本部は新見市役所に出向き、再構築協議会に参加している新見市の根石副市長とローカル線の存廃が議論されてくる芸備線について意見交換を行つた。橋本市議にも同席して頂いた。

全国初の再構築協議会が設置され、1年8箇月となり、結論を出すまでの折り返しを迎えた。この間、5回の協議会と5回の幹事会が開催され、増便列車を走

らせる実証事業Aが行われている。根石副市長からは、

新見市においては、観光地である鯉が窪湿原が閉園しており、観光客の誘致が厳しくなっていることから岡山から新見経由で庄原市のイベント誘致もしていくと話された。

を分割民営化したのは国であり、「ローカル線はなくなりません」と約束をした責任をとるべきである。根石副市長は、鉄道事業の強化の選択肢もあると協議会で意見を述べているようくに鉄道以外のバス転換などに進まないようすべきである。

今後も意見交換をしていくことを確認した。

国が方向性を示すべき

国が方向性を示すべき

国際交流センターにお
岡山合同法律事務所）
した。

地方本部新春団結旗びらき

とき：2026年1月10日（土）
じかん：11：00～13：30
ばしょ：春還町「りぶら」

*楽しい福引きも用意しています
*皆さんの参加をお願いします

毎年行つてゐる地方本部労働学校に則武弁護士を招き、3年連続となる講演をしていただき「赤字ローカル線問題3」と題して芸備線の存続に向けて報告していただきた。

バス転換は失敗する
夕張線や留萌本線などJ
R 北海道でのバス転換の例
を上げながらドライバー不足や便数の少なさによる不便性で鉄道代替バスも存廃をあげながら鉄道の必要性が話された。

地方本部新春団結旗びらき

とき：2026年1月10日（
じかん：11：00～13：30
ばしょ：春還町「りぶら」

最後に、引き続き行動していくことを確認した。

地方本部労働学校を開催する